手　術　部

1．施設の整備状況

（1）現状の概要

1）設備

手術部は一般の手術室７室、バイオクリーン室１室、X線透過装置付き手術室２室、局所手術室１室の合計11室と、専用の洗浄滅菌設備、回復室、検査室等を有している。主な設備として微小手術用顕微鏡３台、内視鏡下外科手術用システム５台、超音波診断装置１台、Cアーム型デジタルX線透視装置２台を有する。

2）人員構成

教授１名（併）、助教授１名、助手３名、看護婦31名（救急部兼任７名）、臨床工学士２名、看護助手３名、事務官１名よりなる

（2）稼働状況、実績

総手術件数は平成９年度3,440件、10年度3,690件、11年度3,980件、12年度3,904件となっており、平成12年度の麻酔科関与麻酔件数は2,904例、局所麻酔は1,000例となっている。手術室の有効利用のため、業務の見直し効率化を図った結果手術件数は年々増加している。また、業務量増加に伴う安全性低下を防ぐためリスクマネージメントにもスタッフ全員が努力している。

2．点検・評価（平成９年度ー12年度）

（1）効率化

1）IT化

平成11年より、手術部オーダリングシステムが導入され、手術申し込みから台帳作成までがオンラインで利用可能となった。

2）部門の統合・廃止

該当事項なし

3）収益性

業務効率化と同時に手術利用枠の増加、局所手術専用室を新設したことにより手術件数が著明に増加し、ベッドあたりの年間手術件数は約6.6件／床と非常に高い値を示している。

（2）貢献度

1）院内

手術室業務効率化および手術オーダリングシステム導入による手術申し込み期限延長などにより、手術部を効率的利用していただけるよう努力している。現在、手術室利用不能により手術が延期される症例はほとんど見られないと考えられる。

2）院外

三次救急指定病院として、診療各科の協力により急患手術も積極的に受け入れており、平成12年度は麻酔科関与緊急手術が376件行われている。

3）地域社会

医学部附属病院として、重度の合併症を有する患者の手術等、一般病院では管理困難な患者の手術を積極的に受け入れて、高度医療サービスを提供することにより地域社会へ貢献できるよう努力している。

（3）高度先進医療、医学の進歩への対応

地域に最良の医療を提供するため、診療各科が行う高度先進医療・手術には手術部として積極的にサポートしている。また新技術習得等には最先端の国内外の病院施設に研修者を派遣している。

（4）組織の柔軟性（人事交流）

該当事項なし

（5）情報発信度

病院を訪問される方を対象にした小冊子で手術部の業務、手術、麻酔の疑問点を説明した他、近日中にホームページを開設予定である。

（6）リスクマネジメント

インシデント・アクシデント報告の実施・分析。さらに患者および手術部位誤認防止、血液製剤誤認防止、刺傷事故防止等、手術に伴う事故防止のための業務・手続きの見直しを常に行っている。

（7）教育

手術部内で起こったインシデント・アクシデントを分析後スタッフに通知・啓蒙しているほか、定期的に各診療科スタッフより手術・麻酔の最新技術・知識の勉強会を行っている。

（8）研究

手術室の衛生管理、褥創予防、小児患者の精神衛生、手術侵襲と生体反応等の分野で積極的に研究を行っており、その成果も各学術集会、雑誌等に報告している。

（9）学会活動

年　　度		9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表	(国際)	3回	1回	4回	6回
	(国内)	26回	23回	25回	28回
	(地方)	12回	13回	7回	7回
	(司会・座長)	0回	0回	2回	2回
シンポジウム特別講演等					
	(国際)	0回	1回	0回	0回
	(国内)	2回	0回	6回	1回
	(地方)	0回	0回	0回	0回
	(司会・座長)	0回	0回	0回	0回

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本生理学会	北野敬明（評議員）
日本集中治療医学会	北野敬明（評議員）

3．問題点とその対策

（1）手術件数が近年非常に増加し、手術部スタッフの肉体的・精神的ストレスが増加している。その対策として、安全性がおろそかにならないようリスクマネージメント対策を強化する必要がある。

（2）当手術部も稼働20年が立ち老朽化が目立ち、設備・機器の更新が必要となる頻度が増加している。その対策としては、設備・機器の点検を強化し、被害が大きくならないうちに修理する等の努力を手術部として行わなければならないが、同時に老朽化した修理不能な設備・機器の更新を実施していただく必要があると考える。

（3）日帰り手術の実施：小児手術患者の精神衛生問題、医療費削減、患者の早期社会復帰等を考慮し、日帰りで手術が可能な疾患については、早期に日帰り手術を実施する必要があると考えられる。その対策として、日帰り患者用の待合い・診察室、術後観察室の新設が必要である。

4．施設の将来展望

大分医科大学医学部附属病院手術部としては、将来にわたって大分県地域住民に安全かつ最先端の手術医療を提供できるように、

（1）手術室の効率的な運用のため、今後とも作業の見直しを積極的に進める。

（2）効率化だけでなく、安全性確保のため効率化以上にリスク管理を積極的に行う。

（3）スタッフの知識・技術・リスク管理能力の向上のため、他施設での研修等、人的交流等を活発に行う。

（4）日帰り手術等の、患者ニーズの多様化に合わせて常に迅速に対応する。

等に今後とも努力していきたい。